

ひょうご農地・水ニュース

今年度も農業の基本となる農地や水路、さらには美しい景観、豊かな生きもの、綺麗な水を守り育む地域ぐるみの活動が県下各地の農村集落で熱心に行われました。

ひょうご農地・水ニュースでは、この一年の各地域の話題やイベントをご紹介します。

平成26年12月7日には、7回目となる「ひょうご水土里のふるさとフォーラム」が淡路夢舞台国際会議場で開催され、県内外から農地・水保全管理活動関係者や都市住民など約3千人の参加がありました。



多面的機能支払交付金制度 ホームページ
<http://hyogo-nouchimizu.com/>

イベント情報や農地水ニュース等、たくさん
の情報を入手でき、事務に係る各様式のダウ
ンロードも行っていただけます。

○CONTENTS○

- P.2～4 第7回ひょうご水土里のふるさとフォーラム 報告
- P.5 個別面談会の実施（神戸地域）／生き物調査（阪神北地域）
- P.6 農地・水・環境保全推進協議会 活動発表会（北播磨・東播磨地域）
- P.7. ため池教室（中播磨地域）／田んぼダムの取り組み（西播磨地域）
- P.8. 田んぼ法面の草刈り作業道設置実演会（但馬地域）／丹波GoGoフェスタ（丹波地域）
- P.9. 菖蒲祭り・子供たちが地域に愛着を持ってもらえる活動（淡路地域）／
交付金の交付ルートが変わります！
- P10. （話題提供）衛星画像配信を活用した農用地等の現地確認事務の軽減について
- P11. （話題提供）ため池・田んぼで洪水を防ごう！雨水貯留大作戦
- P12. （話題提供）人・農地プランとは

明日へつなごう！ひょうごの水土里
～地域ぐるみでの防災・減災～

とき：平成26年12月7日（日）
ところ：淡路夢舞台国際会議場

第7回ひょうご水土里のふるさとフォーラム

阪神・淡路大震災20年の節目として、農業農村の多面的機能の一環である「地域ぐるみでの防災・減災」をテーマにフォーラムが開催されました。大人から子どもまで楽しめる様々なイベントがあり、例年以上の熱気の中、今後の農業農村の在り方を考える機会となりました。



オープニング

メイン会場

近年多発する災害から地域を守るために地域ぐるみで取り組む活動がいに大何かを訴える映像でフォーラムはスタートしました。

続いて、新温泉町の千谷麒麟獅子舞保存会による獅子舞が披露されました。上演後には、無病息災などご利益があるといわれる獅子に頭を噛んでもらう時間が設けられ、次々に希望者が登壇するなど会場を盛り上げていただきました。



セレモニー

藤原農政環境部長による開会のことば、兵庫県土地改良事業団体連合会西村会長の主催者挨拶、近畿農政局曾根局長の来賓挨拶が行われました。



次に、平成25年度に農地・水路等の地域資源や農村環境の保全で、特に優れた取り組みを実施した活動組織に対して「みどり豊かなふるさと大賞」（知事賞1地区、委員長賞4地区）の表彰が行われ、代表者に賞状、記念品が贈呈されました。



また、審査委員長である三野委員長から受賞地区的活動を称える講評が行われ、会場の参加者の活動に関する意識向上につながりました。

三野委員長

☆知事賞☆

- 網引町資源保全会（加西市）
- ★委員長賞（保全管理部門）★
宮前ため池協議会（加古川市）
- ★委員長賞（豊かな農村環境づくり部門）★
新ちゃん活動（南あわじ市）
- ★委員長賞（地域づくり部門）★
貞南条上環境保全向上活動委員会（篠山市）
- ★委員長賞（環境創造型農業部門）★
ひぼこの大地を守る会（豊岡市）



事例発表「網引の農地はあびき・網引で守る！」

知事賞を受賞した網引町資源保全会の事例発表が板井代表により行われました。

住民参加による農地・農業用施設及び地域環境の保全活動や近畿第1号となる「人・農地プラン」の作成、新規就農者と米作りグループとの特別栽培米による減農薬の取り組みなどが映像とともに紹介され、会場の参加者も熱心に聞き入っていました。



板井代表

基調講演 テーマ「魅力ある地域づくりへ～農・食・文化の継承～」



井戸知事の挨拶を挟み、女優で農政ジャーナリストの浜美枝氏による基調講演が行われました。前日に淡路入りし、農漁業の現場を視察したという浜氏。そこで感じたことや、食への感謝の心、食を越えた農業の果たす役割、これからの日本における自然環境のあり方等、御自身の体験を基に語られる話は、参加者の心に響くものでした。



浜氏

トークショー テーマ「ともに支え合い、災害から地域を守る」

【ナビゲーター】 サンテレビアナウンサー 谷口英明

【コメンテーター】 豊かなふるさとづくり委員会委員長 三野徹

【話題提供者】 岡山県美作県民局農地農村計画課総括副参事 菅原弘雅、

元兵庫県職員 武田和義、淡路市・(株)五斗長營農 高田一民、

宮城県仙台市・三本塚集落資源保全隊庶務 佐藤敏之、

元神崎郡生活研究グループ連絡協議会会长 谷川千加子、

加古川市・富木地区環境保全協議会会长 富木攻 (以上敬称略)



谷口アナをナビゲーターに災害を経験したそれぞれの立場において「生の声」で語り合うトークショーが行われました。

阪神・淡路大震災で岡山県から淡路島に派遣された菅原氏からは、北淡町担当としてため池の復旧工事で現場指導にあたった当時のこと、武田氏には、幸い震災時は前年度からの干ばつでため池にほとんど水がなかったこと、そのため決壊による二次災害を免れしたこと等を話していただきました。



佐藤氏からは、東日本大震災において、活動組織を結成していたことで集落としての初期の避難所運営がうまくいった等のお話がありました。



谷川氏からは、震災時の農村からの炊き出し支援の話、高田氏からは豪雨災害を経験し、ほ場整備や遺跡跡地を活用した地域活性化の取り組みの話、富木氏からは毎年実施している「かいぼり」で交流が広がっている話をいただきました。

トークショーの最後には三野委員長から農村の快適で安全な暮らしは、地域住民全員で協力しながら生活環境基盤を築いていくのが基本であるが、その取り組みがもっとも進んでいるのが兵庫県である旨のお話をいただき、会場の参加者へ大いにエールを送っていただきました。

誓い

フォーラムの締めくくりとして、淡路市立浦小学校6年生の児童3名が、阪神淡路大震災20年を前に「農業農村の元気を取り戻し、震災の教訓を語り継いでいきたい」とのメッセージを読み上げました。



イベント会場

イベント会場では、農村環境の大切さを訴えるNPO法人「メダカのコタロー劇団」と尼崎市のゆるキャラ「ちっちゃいおっさん」による自然環境学校が開催されました。また、多面的機能の一つである「農村文化の伝承」として、かみごおり円心太鼓や高田陽光保育園、多可町中央公民館播州歌舞伎クラブ、淡路人形浄瑠璃青年研究会が、守り続けてきた貴重な伝統芸能を披露しました。そのほか、ゆるキャラ記念撮影、田んぼダムセキ板イラストコンテストなど、子どもたちも楽しみながら農村環境保全の大切さを学んでいました。



和太鼓



播州歌舞伎



自然環境学校



人形浄瑠璃



ゆるキャラ記念撮影

田んぼダムセキ板
イラストコンテスト

かまど焼き出し

展示コーナーでは阪神・淡路大震災や東日本大震災のパネル、おいしいごはんを食べよう県民運動PR、田んぼダムの模型、ため池の役割パネルなどが展示されました。

また、兵庫と宮城の活動組織や団体が特産物などを販売し、多くの人が賑わいました。



田んぼダム模型

現地視察（12月8日（月））

フォーラム翌日は、県外からの参加者による現地視察が行われ、北淡震災記念公園、淡路市五斗長（垣内遺跡）、淡路市蔵谷池（かいぼり）などで、淡路島内の復旧・復興状況や地域活性化の取組について見学しました。



北淡震災記念公園



五斗長垣内遺跡



ため池のかいぼり

神戸地域

今年度も個別面談会を行いました！

神戸地域協議会では、全活動組織との個別面談会が毎年恒例となっています。今年度は、継続地区を11～12月、新規地区を1月と、2クールに分けて実施しました。

各活動組織1時間程度、途中までの書類チェックを行ったり、活動の進歩状況、今後の予定などをお聞きしています。その他、意見交換や、困っていることなどの相談も受けています。

今年度、神戸地域では、取組活動組織が86組織から103組織へ。長寿命化取組組織が、45組織から68組織へと大幅に増加しました。継続地区には、良い意味でもそうでない意味でも、ある種の“慣れ”が出てくる一方、新規地区には、多面的機能支払制度の目的とはなんぞや？から始まる新鮮さを感じられました。103組織あれば103通りの取り組み方が存在していて、いろいろなお話を伺うことができた面談となった気がします。

逆に言えば、多面的機能支払が様々な農業農村集落のニーズに対応できる制度であるということであり、これからも、活動組織の皆さんと共により充実した活動を目指したいと思います。



阪神北地域

生き物調査を実施しました！（宝塚市）

平成26年7月27日（日）

中部環境保全活動の会で生き物調査が行われました。当該ため池に外来種が多く生息していることもあり、農村環境保全活動の一環として、こども達と中部地域のため池（上池）の生き物の生息状況を調査すべく魚釣りを実施しました。また、ため池周辺のゴミ拾いなど、ため池クリーンキャンペーンもあわせて実施しました。調査終了後には、宝塚市立自然休養村センターにて、講演「地域エネルギーを考える。（食・水・電気の地産地消）」も行われました。



北播磨地域 東播磨地域

農地・水・環境保全推進協議会 活動発表会

平成27年2月8日（日）

北播磨地域・東播磨地域の協議会合同による活動発表会を平成27年2月8日（日）小野市うるおい交流館エクラホールで開催しました。地元の活動組織に加えて但馬地域や丹波地域の活動組織も加わり、ホールが満席となる500名超の参加となりました。

オープニングの講演は、テレビでおなじみのお天気キャスター片平敦氏に農業に大切な「天気予報の見方・聞き方」を、いつものダジャレを交えながら楽しく解説して頂きました。

表彰式では、各市町から推薦された組織の活動内容を審査の上、優



良な取組をされている活動組織に対して会長賞と優秀賞を授与しました。また、記念品として今後の活動に役立つように会長賞受賞団体にはチェーンソーを、優秀賞受賞団体にはガソリン携行缶を贈呈しました。



片平敦氏



国岡協議会代表

《受賞団体》

東播磨会長賞	国岡協議会（稻美町）
北播磨会長賞	多田農地協議会（多可町）
東播磨優秀賞	行常しあわせ活動資源保全協議会（加古川市）
北播磨優秀賞	上松地区協議会（三木市）
北播磨優秀賞	粟生町農地水環境保全会（小野市）

活動の発表は、会長賞を授与された東播磨・北播磨各1組織から活動内容の報告を頂きました。

最後に「多面的機能支払制度の法制化」と題して、農林水産省渡邊泰浩課長補佐より今年度から始まった多面的機能支払は、来年度から法律に基づく安定的な制度になることを説明していただきました。



参加者は、オープニングや活動発表会、基調講演でも質問をされていましたほか、ロビーでの田んぼダム実演模型に対しても熱心に説明を受けていました。



多田農地協議会代表

第11回「はりちゅうの日」
平成26年11月16日（日）



北播磨地域の農地や農業用水施設等の地域資源の保全活動に取り組まれている優良事例をパネル展示し、地域資源の情報発信や地域の幅広い人たちにより地域づくりにつながっていることの意義をPRしました。

来場者には、2015年メダカのコタローカレンダー（写真入り）を配布しました。また、「田んぼダムの模型」を活用して田んぼが流域対策（ためる）と減災対策（そなえる）の総合治水の大きな役割を担っていることを実演で紹介しました。

中播磨地域

みんなのため池教室

平成26年度は、姫路市2カ所、市川町1カ所、福崎町1カ所の計4カ所で地域の小学生を対象にため池教室を開催しました。

ため池の役割や仕組みを学んでもらうとともに、池の中に入り、生きものを観察しました。

生きものの専門家の方々の協力により、ため池周辺の生きものを題材として、「人と自然の共生」、「農業と自然のかかわり」等についてお話ししていただきました。



西播磨地域

「田んぼダム」に取り組んでいます！

西播磨地域では、平成25年度に県下初の「田んぼダム」の取組をはじめています。本年度は、たつの市新宮町篠首地区において、揖保川水系初の田んぼダムの取組がはじまるなど、田んぼダムの本格実施の先導地区として期待されています。5月に「田んぼダム」の取組を広くPRする「田んぼダムせき板」贈呈式が、地区住民参加のもと行われました。

また、6月には地域で取り組む総合治水活動のPRとして、宍粟市立戸



せき板コンテスト

原小学校において、児童が田んぼダムせき板に絵を描く「せき板コンテスト」が開催されました。



せき板贈呈式

但馬地域

田んぼ法面の草刈り作業道設置実演会の開催

去る10月3日、養父市能座区のほ場で、法面の草刈り作業道設置実演会を開催しました。

法面の草刈りは農作業の中でも相当の割合を占めており、但馬で多くを占める中山間地域では、高齢化とも相まって、転落事故や耕作放棄地発生に繋がりかねないことから、その安全確保と負担軽減を目的として、足場となる作業道を設置するものです。これは、県内初となる取り組みで今後広く普及していくために、モデル地区として養父市能座区に協力いただきました。

当日は、但馬各地より約200名の参加があり、作業道設置の実績がある「能座地区地域資源保全隊」の方々を講師として、作業道造成機を用いた設置作業を実演いただきました。



実演会の様子

作業は、田んぼ法面の途中に幅25cmの作業道を設置するもので、時間は100m当たり1時間程度でした。

参加者の方にも実際に造成機を使用していただき、操作技術の取得と安全上の注意点を学んでいただくなど、有意義な研修となりました。



造成機

丹波地域

丹波 GoGo フェスタ 2014 に出展!!（丹波市）

平成26年11月3日（月・祝）

丹波市では、昨年8月の豪雨災害により甚大な被害に遭いました。そこで、被災された方をはじめとした市民のみなさんに元気を取り戻していただくとともに、丹波市の魅力を内外に広くアピールするため、「丹魂（まごころ）～復興に向けてこころひとつに～」をテーマに「丹波 GoGo フェスタ2014」が開催されました。

本協議会では、多面的機能支払交付金が果たしている役割について多くの方に知っていただくことを目的に出展しました。活動の趣旨や優良な活動事例についての紹介をはじめ、農地や農業用施設の維持管理の大切さについてのパネル・模型の展示やため池の事前放流の効果を模型の実演により紹介を行いました。



ため池事前放流の実演模型



農村模型は子どもの興味のまと



賑わう出展ブース

淡路地域

菖蒲祭りの開催（淡路市） 子供たちが地域に愛着を持ってもらえる活動（南あわじ市）

淡路市高山地区では今年も新池（井面田主）周辺で菖蒲祭りが開催されました。地物野菜、みかん等農産物、菖蒲の即売会が行われ、婦人会、シルバー会、子供会から屋台が出店し、地区上げての取組に大勢の人で賑わいました。当日は市長も視察に訪れて激励の挨拶が行われました。

高山地区は中山間地域等直接支払制度と併せて、H26年度から井面多面的組合による多面的機能支払制度の取組がスタートしており、他の水利組合にも取組拡大が期待されます。



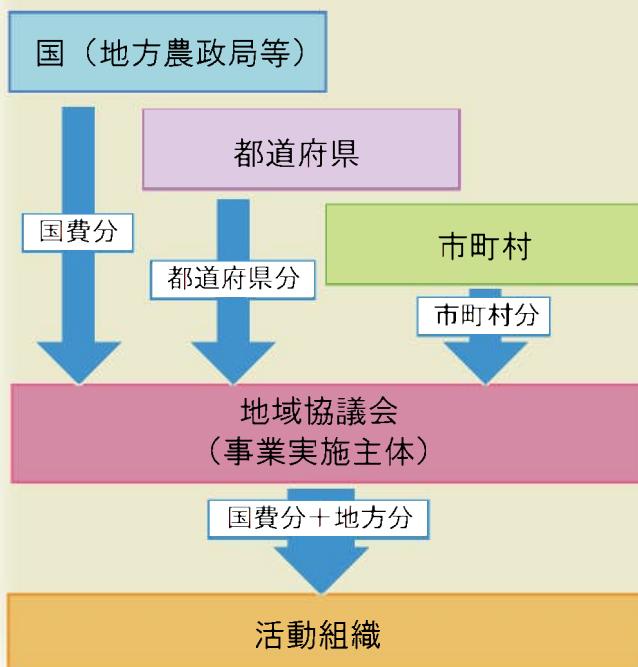
また、上幡多農地・水・環境保全推進委員会（南あわじ市）では、環境整備に力を入れており、ため池を活用したヨットセーリングや、ビオトープのイルミネーションを飾るなどしています。また、小学生が作った瓦を水路に敷設し、水質保全に活用するなど、子供たちが地域に愛着をもってもらえる活動を多くとり入れています。



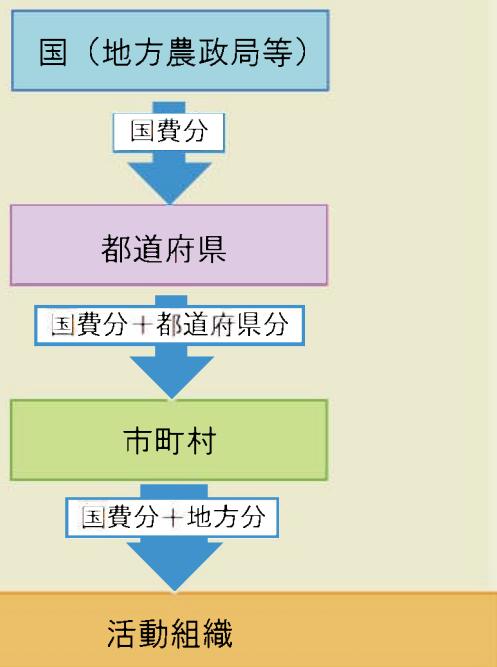
交付金の交付ルートが変わります！

平成27年4月から、法制化に伴って、交付金の交付ルートは、国→都道府県→市町村→活動組織となります。（これまでは、（国、県、市町村）→地域協議会→活動組織）

（これまで）



（法制化後）



話題提供

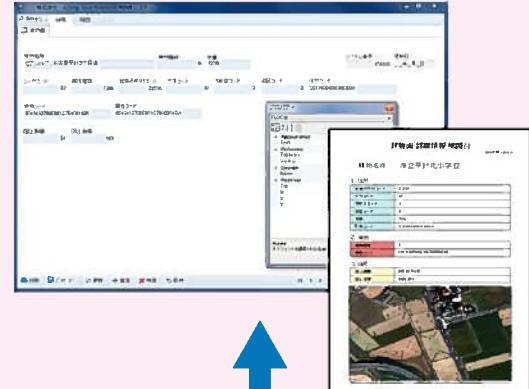
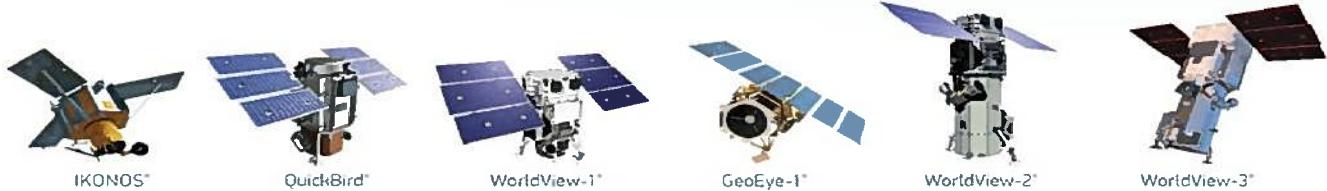
衛星画像配信を活用した農用地等の現地確認事務の軽減について

今年度から多面的機能支払交付金の協定に定められている全ての農用地及び対象施設の保全管理状況について、毎年度、市町の現地確認が必要になりました。

平成27年度からは、法制化により地域協議会が担っていた事務は市町が行うこととなり、市町事務の増大が懸念されます。

このたび、水土里情報システムに衛星画像配信システムを追加することで、農地等の保全管理状況がパソコンの画面上で確認できるようになり、事務負担が軽減されます。

世界最高峰の30cm解像度高分解能衛星WorldView-3を含めた6機の高分解能衛星が連携して兵庫県を撮影！



次期水土里
情報システム

- ◆毎年、兵庫県内の全ての農地の画像が**継続的に配信**されます！
- ◆高解像度衛星画像により、**農地の作付状況**が判斷できます！
- ◆高低差のデータが配信され、**地形勾配**が把握できます！
- ◆衛星画像に**水路、農道、ため池**など様々な情報を登録できます！

- ★水土里情報システムとの連携ツールで帳票入出力が可能です。
- ★多面的機能支払の市町推進費から水土里情報利用料（月1万円+消費税）に充当することができます。

◆お問合せは兵庫県土地改良事業団体連合会水土里情報課（TEL078-341-0592）まで

話題提供

ため池・田んぼで洪水を防ごう！雨水貯留大作戦

～農業・農村の多面的機能の増進について～

兵庫県では頻発する風水害に備えるため、ため池や田んぼなどを活用して下流の洪水被害を軽減させる総合治水対策を推進しています。

ため池では、あらかじめ放流（事前放流）し、雨水の一部をため池に貯留させる取組が、田んぼでは、落水口にセキ板を設置して流れ出る雨水を調整することで雨水を一時貯留させる「田んぼダム」の取組が始まっています。

ため池貯留

取水施設の改良や洪水吐（越流堰）の一部切り下げなどの整備を行い、営農に支障のない範囲で事前に水位を下げて雨水を一時的に貯留させる取組です。

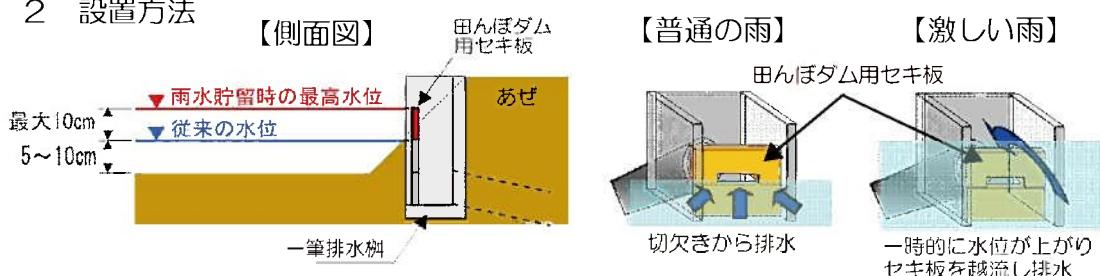


洪水吐の一部切下げ

水田貯留「田んぼダム」

1 田んぼダム用セキ板 切欠きのあるセキ板を既存のセキ板の上に設置します。

2 設置方法



地域の取組を応援する平成27年度の支援制度（多面的機能支払以外のもの）

交流促進モデル事業 雨水貯留を契機とした下流（都市部）との交流活動を支援

事業内容	ため池や田んぼを活用した雨水貯留に取り組み、下流の都市部の団体等（自治会、子供会、企業、NPO等）との交流を促進するなどモデル的な取組に対して活動費を助成
上限助成額	1地区当たり15万円（定額）×9地区
対象経費	農村の取組を下流（都市部）に紹介するなどの交流活動、啓発活動等の実施に要する経費（田んぼダム用セキ板は別途配布）
その他	（交流例）都市部の小学生等との活動モデル 小学生の環境学習として、小学生がペイントしたセキ板を設置し、雨水貯留の学習会に加えて農業体験等の交流から農産物を給食で使用する等へ発展

セキ板1000枚配布大作戦 田んぼダムに取り組む集落にセキ板を無料配布

事業内容	総合治水の取組に関心を持つ集落に対して、セキ板を無料配布するとともに管理方法の講習を実施し、効果の高い取組を着実に拡大
要件	①ほ場整備済田での雨水貯留の取組にかかるセキ板の設置や維持管理について、集落内の合意形成が図られている、②稲刈後のアンケート調査への協力
配布内容	①田んぼダム用セキ板、②のぼり旗

◆お申し込み・お問い合わせ

各土地改良事務所・センター、阪神農林振興事務所、兵庫県農地整備課

話題提供

人・農地プランとは

皆さんの集落・地域において徹底的な話し合いを行って「人・農地プラン」の作成を進めましょう。



1 人・農地プランは、人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」です。

- ☆ 集落・地域が抱える「人と農地の問題解決」のため、**集落・地域において話し合っていただき**、次のことを決めていただきます。
また、プラン作成後も定期的に見直し、よりよいプランにしていきましょう。

〈地域における話し合い〉

- 今後の中心となる**経営体（個人、法人、集落営農）**はどこか
- 地域の**担い手**は十分確保されているか
- 将来の**農地利用**のあり方
- 農地中間管理機構の**活用方針**
- 近い将来の**農地の出し手**の状況（いつ頃、どのくらい出す意向か）
- 中心となる**経営体**とそれ以外の**農業者**（兼業農家、自給的農家）の**役割分担**を踏まえた**地域農業のあり方**（生産品目、経営の複合化、6次産業化）



2 人・農地プランには、様々なメリット措置があります。

- ☆ 人・農地プランに位置付けられると、
- **青年就農給付金（経営開始型）** → 原則45歳未満の認定新規就農者で独立・自営就農する方（※準備型（研修中）は、人・農地プランと関係なく給付します。）
- **スーパーL資金の当初5年間無利子化** → 認定農業者
- **経営体育成支援事業** → 適切な人・農地プラン作成地区で経営改善を目指す**中心経営体等**の方

- ☆ 農地中間管理機構に農地を貸し付けると、

- **経営転換協力金・耕作者集積協力金** → 農地を貸し付ける方
- **地域集積協力金** → 地域で一定割合以上の面積をまとめて貸し付ける**地域**

といった支援を受けることができます。

【問い合わせ先】各市町農林担当課にお気軽にお問い合わせください。